SATURN NEWS

平成22年6月
22-16

「胃癌取扱い規約」改訂による病理診断記載方法変更のお知らせ

謹啓　時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

この度、「胃癌取扱い規約」が改訂され第 14 版が発刊されました。これに伴い弊社におきましても病理診断の記載方法を変更いたしますので、何卒ご了承の程宜しくお願い申し上げます。

謹白

記

胃癌取扱い規約（第 14 版）の主な改訂点

①壁深達度～TNM 分類に整合性をもたせて T 分類を改訂した。これにより T0 の新設。T1a：M、T1b：SM（T1b1：SM1、T1b2：SM2）、T2：MP、T3：SS、T4a：SE、T4b：SI と規定された。

②浸潤増殖様式～INF α、β、γ をそれぞれ INFa、b、c とした。

③手術標本、粘膜切除標本の切除断端～PM、DM、VM の（＋）/（－）の表記法が改訂された（例：PM（＋）→PM1）。LM が HM に変更された。

④粘膜切除標本の表記～一部が改訂された（ly（－）/（＋）、v（－）/（＋）、UL(－)/（＋））

⑤胃生検組織診断分類（Group 分類）

旧 Group 分類（第 13 版、1999）	新 Group 分類（第 14 版、2010）
	X：生検組織診断ができない不適材料
Ⅰ：正常組織および異型を示さない良性（非腫瘍性）病変 →	1：正常組織および非腫瘍性病変
Ⅱ：異型を示すが、良性（非腫瘍性）と判定される病変 →	2：腫瘍性（腺腫または癌）か非腫瘍性か判断の困難な病変
Ⅲ：良性（非腫瘍性）と悪性の境界領域の病変 →	3：腺腫
Ⅳ：癌が強く疑われる病変 →	4：腫瘍と判定される病変のうち、癌が疑われる病変
Ⅴ：癌 →	5：癌

札幌臨床検査センター株式会社
SAPPORO CLINICAL LABORATORY INC.